

カブリ・ファミリーの一員に

IPMU 機構長

村山 斉 むらやま・ひとし

IPMU はこの4月にカブリ研究所になります。これは大変嬉しいことです！アメリカのカブリ財団が、私たちの研究の面白さとスタッフの国際性を認知し、世界でも名だたる大学にしかないカブリ研究所の一員として迎えてくれました。これで IPMU の国際的な認知度も更に増し、優秀な研究者のリクルートの大きな助けとなります。実際、日本の国立大学では、外国の寄付者の冠を付けた研究所は初めてです。同時に、他のカブリ研究所との共同研究が更に進むことでしょう。

フレッド・カブリ氏はノルウェーで物理を学び、アメリカへ渡りました。飛行機、自動車、などの工業応用があるセンサーを開発、カブリコ株式会社を設立して、大成功を収めました。人類の知を推し進めることに深い関心を持ち、会社の株を売却した後、カブリ財団を設立しました。世界の著名な学術組織、アメリカ科学振興協会、米国科学アカデミー、英国の王立協会、そしてノルウェー科学人文アカデミー、などを支援しています。名誉あるカブリ賞を隔年で授与し、アメリカの受賞者はホワイトハウスに招かれて大統領に面会します。財団は更に15ヶ所のカブリ研究所に基金を寄附、宇宙物理(スタンフォード、シカゴ、MIT、北京、ケンブリッジ)、ナノサイエンス(コーネル、カルテク、デルフト、ハーバード)、脳科学(コロンビア、サンディエゴ、イェール、ノルウェー科学技術大学)、理論物理(サンタバーバラ、中国科学院)の四分野を支援してきました。カブリIPMUはその16番目となり、日本では初めてです。

基金からは運用益が毎年「永遠に」入り続けます。こうした柔軟な資金は、まだ研究費の申請段階までい

かない生まれたばかりのアイデアを育てたり、優秀な研究者をリクルートする資金に使うことができます。IPMUにカブリの冠を付ける記念式典は5月に予定しています。

勿論、IPMUは日本政府の時限付き資金で運営されていますが、いずれ他の資金を確保して恒久的な研究所になることを求められています。カブリ財団による基金からの運用益は、現在の時限を超えて研究を続ける助けになります。更に財団や東京大学と協力して基金を増やし、冠教授や冠フェローを設けるように、今後努力していきます。

Director's
Corner